



す ま い る



園小中箱根教育合言葉「箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく」

自然探索で見つけてきた「クロコノマ」の幼虫。さなぎから、成虫になりましたが、子どもの関心は幼虫の時ほどありません。もちろん、成虫になるまでは気に留めて葉を取り替え、変化に気付き、成長を楽しみにはしていたようです。蝶になった時は「わあ」と喜んではいいたのですが…。そこで蝶になった「クロコノマ」は、どうするのか？飼っているのか？ほったらかしているのか？聞いてみると、子どもの答えはどちらでもなく、「天気が悪くて寒いし、雨が降りそうでしょ。こんな日に、逃がしたら蝶は飛べないよ。ずっと、歩いて行かなきゃいけないでしょ？そんなの疲れて可哀そうだから、天気になったら逃がすんだよ。」という返事が返ってきました。つまり、逃がすタイミングを考えていたようです。蝶が歩いていくななんてことは、大人は想像しませんが、子どもは「ものの世界と一体となる力=同じ仲間にして考える力」を持っています。子どもは子どもなりの考えをしっかり持っていて、私達大人は、その考えに感心させられたり、驚かされたたり、納得させられたりしています。子どもって、本当に面白い！！

箱根幼稚園焼き芋大会

今年もさつま芋ほりに伺わせていただきました。「今年はいいお芋が出来たよ！」と杉山さん。「よーし。がんばるぞ！」と張り切って掘り始めました。どこを掘っても紅くきれいで大きなお芋がたくさん。軍手を外して、靴下まで脱いで夢中になって掘り、コンテナ2つには積みきれないほどのお芋が採れました。途中出てきた、これまた大きなミミズにも夢中。「ミミズではなくてお芋を掘ってくださいーい。」と声を掛けると「だって、ミミズちゃん可愛いんだもの。」と。それを聞いた杉山さんが「ミミズを可愛いなんて、さすが箱根っ子だな。」と言われて帰ってきました。このお芋を使って、11/8には、幼稚園で焼き芋大会をしました。今年は、回覧板やハロウィーンの地域めぐりでもお知らせさせて頂いたので、地域の方や未就園児の方にも集まっていただけました。子ども達は、朝から「お客さんが来てくれる」と言っただけでイモ洗いに精が出ます。濡らした新聞紙とアルミ箔でお芋を上手に包みました。そんな時でも、子ども達は色々な気づきがあります。「これはね、ウクライナと箱根（多分日本のこと）の偉い人がもう戦争は止めにしようって話しているんだよ。でもなかなかやめられないらしい。嫌だね。」と新聞の写真を見て会話が生まれます。芋洗いでは、どうしたら効率よく洗っていかれるか考え出します。火おこしをしている先生に気持ちを向け煙が上がると「先生、大丈夫かな？」と心配をしていました。焼きあがると、お芋の黄色はより鮮やかになりみんなで口いっぱい頬張り楽しいひとときになりました。地域の方が優しい笑顔で側にいてくださることだけで、子ども達も嬉しそうでした。また、いらしてくださいね。



海賊船に乗る時、4歳児が「どうして湖はできたんだろう？」という疑問がふと湧いてきました。そこで、青山さんをお招きして「箱根についてのお話会」を開いていただきました。国旗やいろいろな国に興味を持っていることから、この日は世界地図からお話が始まりました。世界地図を広げると、すぐに子ども達は、日本や先日聞いたヨルダンを探していました。オーストラリアの地図は、南半球と北半球が日本とは逆さまになっていて、すぐにそれにも気付きました。地図で見ると「こんなに大きな幼稚園の庭も小さいんだね」と子どもらしい気づき。イギリス・日本・ヨルダン・韓国などの航空写真からは、色の違いに気付き、石や砂が多い国、日本のように木々の多い国の違いを写真から知ることが出来ました。『木があるということは、草花もたくさんあるということ。』と箱根の自然の豊かさにも触れてくれました。その中で、『イギリスも昔は木が多かったけれど海賊船をたくさん作ってしまったから木が少なくなっちゃったんだよ。』と。園児にとっては身近な海賊船を通して話を広げていただきました。どの地図を見ても、子ども達は、自分の家や幼稚園を探そうとします。その度に、青山さんが「〇〇ちゃんのうちはここかな？」と応えてくれると、満足そうです。家や園が3人にとって心の基地になっているようでした。パワーポイントとジオラマを使って火山の仕組みを話して下さった時は、見て・触って「ほんとだ。」「すごい爆発」「怖いよ」と言葉を交わし、芦ノ湖が出来た様子も分かりました。また『日本の溶岩は速くて無理だけれど、ハワイの溶岩はゆっくり流れているから近くで見たり、それをすくってみたりすることもできるんだよ。』そう聞き、ハワイへの憧れが生まれました。その後は、ココアパウダーとコンデンスミルクで溶岩流の実験です。この2つを使って縄状溶岩と似ているシワができれば、実験成功！すでに経験のある5歳児がお手本にやってみてくれます。4歳児も「難しいよ」と言いながら真似てみると3人とも上手にシワができ実験成功です！！園庭で拾った石を顕微鏡で見て『これは、石英だね。』と教えていただき、その「きらきら」した様に拾った子は喜んでいました。子ども達が得意？のアラビア語で「シュ克蘭」と挨拶をすると、アラビア語に精通の青山さんが最後にアラビア語の新聞や本を見せてくださり、日本の数字とアラビア数字の違いを楽しみ、自分のノートに書いていました。子どもの興味を全て入れ込んでくださり、知りたかったことがわかり、新たな興味がわいたようでした。お迎えに来た保護者の方に「前の日から楽しみにしていたけれど、どうだった？」と聞かれ「すごく詳しく話してくれたよ」と伝え、早速、粘土や折り紙で火山を作る姿も見られました。私達職員も、箱根のことを違った角度から知る機会になりました。この経験を基に後日大涌谷へも行き、噴火口の煙や音、香りなどで確かめていました。